

## 24) 靈的エクササイズ17. 2020年5月1日

(イエスの御心の金曜日)

朗読 使徒言行録9：1~20

福音 ヨハネ6：52-59

父と子と聖霊の御名によって、アーメン。イエスとマリアは賛美されますように！

兄弟姉妹の皆さん、今日の福音の最初の部分は、今の私たちが置かれている状況にあてはめて考えることができます。

「ユダヤ人たちは、『どうしてこの人は自分の肉を我々に食べさせることができるのか』と、互いに激しく議論し始めた。」

今の私たちの中には、このように言う人が少なからずいます。「教会はどうして私たちに主の御体を受けさせてくれないのか？」

今、このような緊張が教会にあるのを感じます。

ある人たちは、「自分たちには、聖体拝領をする権利がある」とも言います。

兄弟姉妹の皆さん、聖体に対して「権利」というのはあるのでしょうか？

もちろん、「私は洗礼を受けているから」「私はよく祈っているから」「私は忠実だから」と言えるのかも知れません。

アルスの司祭はこのように言われました。

「私たちのうち、誰が神に、『私たちの罪のゆえにこの世に来て、人生を捧げ、御からだを与え、ひとり子を十字架上で死なせて欲しい』と要求できる権利を持つ人がいるのでしょうか？」

皆さんは、自分たちに権利はないことを心で感じているでしょう。ご聖体、秘跡は権利や義務の問題ではないのです。最終的に「愛」、「イエスを切望する心」が問題なのです。

私が「切望」について、イエスに対する憧れについて話すとき、迫害を受け、数ヶ月も、何年も御聖体をいただけない国にいる人々のことを思い出します。今の私たちのこの困難な状況、緊張状態は、私たちが目覚め、目覚め続けているように与えられたのかも知れないと思うのです。

考えてみてください。イエスは33年間も御父を見ることができませんでした。それを私たちのために捧げられたのです。

私たちが「権利」について話すなら、迫害されている兄弟姉妹の方が私たちよりも「権利」があると思うのです。では、「私は『権利の主張』をこの長い間迫害されて苦しみ、御聖体をいただけない人々のために放棄しよう、捧げよう」と言ってもいいのではないのでしょうか。

今の私たちが置かれている状況について、これですべての説明がついたと言うものではありません。納得のいく完全な解説はないでしょう。

祭壇の上で、パンとワインが聖なる御からだと御血に変わることに、人間が納得できるような完全な説明がないのと同じです。

この神秘に、私は今でも毎回驚嘆します。神がご自身を与えてくださることに、神の謙遜さに感嘆するのです。

謙遜。そうです。ご自身を聖櫃の中に閉じ込めさせられる神の謙遜さ。もしかすると、一週間もの間、誰も訪れてくれないかも知れないのに、ずっと箱の中に留まり続けられるのです。どれほど孤独でしょうか。

この「謙遜」は私たちキリスト者に求められるものです。

ミサ聖祭は二度と祝われたい、二度と御聖体を受けられたい、と言っているのではありません。

謙遜。今まで何度もイエスを拝領したことを思い出し、感謝することは謙遜の行為です。

「私は何度も何度もこの恵みを受けてきました」と感謝するのです。

「イエス、私は何度もあなたをいただいたけど、いつも目覚めていたとは言えません。でも、あなたはそんな私の中に来てくださいました。あなたは謙遜に来てくださいました。そして、私の中に留まってくださいました。幾度、あなたを無造作に受けてきたことでしょう。でも、あなたは来てくださいました。あなたは忠実な方です。」このように感謝するのです。

兄弟姉妹の皆さん、私たちはイエスと共に歩みたいと思っています。イエスが生ける神であること、私たちの中に生きておられること、私たちに永遠の命を与えてくださることをはっきり意識していきましょう。

イエスは生きておられる。コロナ危機も迫害も、困窮、攻撃、弱さも、それどころか私たちの罪も、私たちがイエスから断ち切ることはできないのです。

私たちが救い、解放するために、イエスはそれらすべてをご自身の上に引き受けてくださったのですから。

この謙遜と感謝の姿勢を保ちつつ、また歩み、祈ってゆきましょう。

特に、教会のため、教会に責任を持っている人たちのために祈りましょう。

主よ、あなたの祝福で私たちに強めてください。

父と子と聖霊の御名によって、アーメン。

生ける神、偉大な神、謙遜な神の現存のうちに、皆さん、祝福に満ちた1日をお過ごしください。

